

第3部会における主な意見

項目	主な意見	区役所の回答
子ども・青少年の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントへの保護者の参画について、具体的な施策や計画があるか。 ・子どもたちは、クラブ活動や年6回の土曜授業があり、土日のイベントには参加しにくい。出やすくすることも大事なのではないか。 ・中学校総合文化祭になどは周知が少し遅い。回覧を回すには時間もかかる。 ・部活をしている子どもの交通費が高く家庭への負担が大きい。区のバスがあるなら回すなど、何らかの対応ができないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が参加してもらえるよう、広報活動を積極的に行っていききたい。コンサートなどは子どもが出演すれば親は見に来ることが多いし、今年度は、英語スピーチコンテストなどを企画し、参加しやすいものにしたい。 ・いただいた意見も踏まえて検討していききたい。 ・少しでも早く周知できるようにしていききたい。 ・区でバスは所有していない。難しい問題であるが、検討課題ということでお聞きしておきたい。
学校と社会を結ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業について、いろいろな所から依頼があるが、単に学校と企業を結ぶのではなく、学校の教育過程と結びつけていくと深みが増し受けやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業については、以前から教育カリキュラムと関連させた形でお聞きしており、今後もその主旨に沿って、やっていききたい。子どもたちも興味が増すよう企画していききたい。

項目	主な意見	区役所の回答
戸別訪問型等児童虐待防止啓発活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・戸別訪問型等児童虐待防止啓発活動の実施 27 回ほどあった活動か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の主任児童委員と子育て支援室の職員の連携のもと、啓発物品等を活用し、各戸別訪問による児童虐待防止の啓発活動を実施するほか、防災訓練等のイベント時においても啓発活動を行った。
区内（障がい者施設）作業所について	<ul style="list-style-type: none"> ・区内作業所の数はいくつか。 ・立ち入り調査は行っているか。 ・区内作業所の数を増やす必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 か所 （地域活動支援センターとして、大阪市みどり作業所、しろきた福祉作業所） ・事業所の調査権限は区にはなく、福祉局が必要に応じて行っている。 ・作業所に限らず、障がい福祉サービスは民間事業者が障害者自立支援法に基づいて提供しているところであり、提供するサービスや事業所の開設場所を民間事業者が選定し、福祉局へ申請を行って指定を受けている。
がん検診受診率の向上について	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、有名人が大腸がんで亡くなったという報道があり、大腸がん検診を受ける方が増えた。大腸・乳がんは若年化していることから、鶴見区では患者数が増えていくことが予想されるので、本来受診することができる方に行き届く良い周知方法がないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所耐震工事のため、特定健診・がん検診の回数を減らしていたが、27年度は全体及び土曜・日曜の受診回数を増やしている。他の区に比べ、受診率は高いが、さらに受けていただく方が多くなるように啓発に努めるとともに、広報・周知を引き続き行っていく。

項目	主な意見	区役所の回答
公園の使用について	<ul style="list-style-type: none"> ・日中誰も使用していない公園を有効に使用したいが、使用料が高い。 利用しやすい使用料にできないか。 それにより、高齢者の利用が増え、健康増進につながるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の使用料は条例で定まっているが、ご意見として承った。
バスの運行について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によってはバスの必要性が高い地域がある。 運行経路や本数など検討できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見として承った。
目標設定について	<ul style="list-style-type: none"> ・取組み内容について数値での表現のみでなく、事例に即して説明してもらえるとよく分かる。 ・アンケートの数字の取り方について専門家のアドバイスを取り入れるなど工夫してみてもどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果も設定の仕方で変化することもある。一方、数値での目標設定や評価はシステムとして必要ではあるが、数値だけではなく、そこにある課題が何なのかを見つけていくことが大事であると考えている。